

イチゴ 夏場鈍る授粉蜂 ドローンで代替



▲ドローン授粉の実演をする菊地さん(盛岡市で)

盛岡市・菊地潤さん

夏に元気がなくなる蜂の代わりにドローンが授粉——。盛岡市で夏イチゴを栽培する「玉山うるおいイチゴ園」の菊地潤さん(38)は、小型ドローンをイチゴの株のすぐ上方に飛ばし、風を送って授粉を促す。良品率は蜂より落ちるものの、安価に導入でき、「ドローン100%授粉」のいちごジャムの試験販売も始めた。

公式ウェブ
動画掲載



産学官でつくる東北地域農林水産・食品ハitek研究会が開いた視察会で、菊地さんがドローンでの授粉作業を披露した。品種は「すずあかね」。収穫は7〜11月で、菊地さんによると夏場のハウス内温度は40度を超え、蜂の活動が鈍って授粉不良が課題になっ

業界便り

電動農機補助
希望者を募集

12月19日まで

農林水産・食品産業技術振興協会(JAAT A F F)は、農業機械の電動化を進めるための環境省の補助事業の

ていたという。

良品減も導入安く

試験では、ドローンだけで授粉するとイチゴの良品率は約6割。蜂だけで授粉した場合の約8割よりは落ちるが、「蜂より安価で受粉を促すことができる」(菊地さん)と利点を話す。ドローンは

一環で、電動農機の導入希望生産者などを募集している。補助率は、従来農機と導入農機の価格の差額の3分の2。ロボット草刈り機や、有機水稲の雑草発生を抑えるアイガモロボなど電動農機34型式が対象で、12月19日正午まで受け付ける。環境省の2025年

10万
当た
かる
ム
の
一
知
識
い